

る。さらにこの年表を立体的に「時の胚種」の発想を中心に  
して種々の幾何学的図形にそつて展開する一枚の年表を組  
み、北里柴三郎のトポグラフィとして説明している。一つ  
の試みとして着想は興味深い。

最後に、北里の東京医学校に入学後の成績であるが、「同級  
生が順次落伍して三、四年の間に半減したにも拘らず、常に  
級の中以下に下がらなかった」(北里柴三郎伝、昭七北里研究所  
発行)と言われ、本書に出ている「あまり成績も芳しくなく  
……」の事実は当時の資料にも見られないところであり、ま  
た巻末に文献として出ている村上陽一郎氏の著書の中でも  
「あまり成績のよくなかった彼は……」とあるので弁護しておき  
たい。

なお本書に掲載されている写真等は電顕写真も含まれ、多  
種類で読者の興味をそそるものとなっている。

(会田 恵)

〔哲学書房 東京都千代田区神田駿河台二一三一―一六〇六、電話  
〇三―二三三三―一〇五〇、一九九九年十二月、A5判、二八六  
頁、二、五〇〇円〕

### 正誤表

第四十六巻第四号に誤植がありましたので訂正致します。

(編集部)

五五五頁十一行目……常に↓畜に  
五六二頁注(24)……Die gdee → Die Idee

### 編集後記

当四十七巻一号は新世紀最初の本誌とな  
る。十九世紀に先学の築いた本学会が、二  
十世紀の百年を越えて発展し、さらに二十一世紀を迎えるこ  
とができた。これを象徴する当号を会員諸氏にお届けできる  
ことは、誠にご同慶のいたりとし上げたい▼ところが、以  
上は奥付だけの話になってしまった。本来は昨年十二月二十  
日付発行の前号が遅延し、本年一月漸く会員諸氏のお手許に  
届いたからである。それゆえ実際にした新世紀初の本誌は、  
奥付が齟齬する前号となつてしまった。印刷・製本が年末の  
多忙期に重なつたためだが、それは恒例のことであり、弁解  
の余地もない。ここに深くお詫びいたし、ご寛容をお願いす  
る次第である▼さて当号には原著四報・研究ノート二報のほ  
か、資料・記事・書籍紹介と、盛り沢山を掲載することがで  
きた。ただし次号送りとせざるを得なかつた原著・研究ノ  
トもある▼ご存知のように、本誌の刊行には科研費の補助金  
を受けており、年間の総ページ数がかなり厳格に規定されて  
いる。このため各号のページ数が制限され、審査を経て受理  
された論文でも、時には掲載できない場合が生じてしまう。  
受理された論文のうち、投稿の早い順に掲載してはいるが、  
やはり次号送りは遺憾というしかない▼しかも投稿論文は近  
年、増加傾向にある。これは学会全体の発展の指標でもあり、  
本来は歓迎すべき現象なのに、悩ましい問題になってしまつ  
た。なんとか良い方向に解決すべく方策を検討したいので、  
ご理解とご猶予をお願い申し上げます。

(真柳 誠)